

平成 29 年度津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

日時：平成 29 年 8 月 21 日

場所：市役所 5 階 第 1 委員会室

【配布資料】

資料 1 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿

資料 2 津島市まちひとしごと創生総合戦略推進委員会設置要綱

資料 3 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理資料（平成 29 年度版）

参考資料 現状値報告資料

開会

挨拶

（日比市長）

津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の開催にあたり、簡単ではありますが、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、ご多忙の折、「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」にご出席賜り誠にありがとうございます。さて、大きな問題といたしまして人口減少や少子高齢化に対応するため「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、地方創生に向けて、国及び地方自治体が一丸となり取り組んでいるところです。津島市におきましても、人口の現状と将来の展望を提示した「津島市人口ビジョン」、津島市の基本目標や取り組む施策をまとめた「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を昨年 3 月に策定し、取組を進めているところです。

日本全国におきましても 50 年後には人口が 8,800 万人になってしまうということで、人口が 3 割減る、また生産人口が 4 割減るということであるにもかかわらず、65 歳以上の高齢者は今と変わらない 3,300 万人というような大変な時代をこれから迎えるということでございます。

本日の委員会では、津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る事業について、平成 28 年度の実績・評価等、推進状況等をご説明させていただきます。予定通り進んでいる事業もある一方で、当初の予定通りに進んでいない事業もあるため、皆様方から、進捗状況や今後の取組方法について自由、忌憚のないご意見をいただくことで、今後の事業の実施に活かしていきたいと考えております。また、この総合戦略は、平成 27 年から平成 31 年の 5 年間を期間として設定しており、今年度がその折り返しとなることから、今後の展開に関しても重要な節になると思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委員の皆様には引き続き津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進にご協力いただきますよう、お願いするとともに、皆様方のご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。どうかよろしくご挨拶申し上げます。

委員紹介

事務局紹介

資料確認

委員長挨拶

次第 2 議題

津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について

基本目標 1 「若い世代の結婚・出産・子育てを応援する」の事業の進捗について、事務局より説明

(委員長)

- ・基本目標 1 をご説明いただいた。基本目標 1、2、3 それぞれ、皆様方から意見、質問はあるか。

(委員)

- ・基本目標 1 は、全国的に同じような形態で実施しているのか。津島市が独自のものはあるのか。

(事務局)

- ・自治体によって対応が異なる。子育て応援券事業は津島市独自のものである。

(委員)

- ・基本的に一般的な人たち、津島市に住もう、住みたいと思っている人たちは、資料に掲載されているもの以上に具体的な内容を知りたいと思う。

(事務局)

- ・事業実施課と協力して事業の PR に努める。

(委員長)

- ・実数として平成 27 年度から 28 年度の出生率は伸びていないが、落ちてはいないという理解でいいか。

(事務局)

- ・良い。子どもの数減少については、全自治体の課題のひとつであると理解している。出生数、人口を増やす問題は、施策的な部分で充実できる支援を含め対策を練る必要があると考える。

(委員長)

- ・この「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」今出席しているメンバーとほぼ同じメンバーで策定した総合戦略なので、KPI の立て方、内容について、実際に成果を図れるものかという疑問はこの場でするものではない。
- ・今回のこの会議では、基本目標の 1、2、3 を軸に議論していこうという話ではある

が、基本目標の事業は何のためにやっているかという、上位目標の重点戦略を実現するために行っているもの。一番実現しなくてはならないというのは重点戦略の実現であり、意識しなくてはならないのは、重点戦略の目指しているもの、というのができているかどうかということなので、重点戦略の話をざっくりとしていただきたい。

事務局より総合戦略の構造について説明

(委員)

- ・委員の立場からは、津島には昔から夏祭りや秋祭りがあるが、子どもたちが増えないと、今までやっていたことが継続できない状況。私はそういうことを大変危惧している。真剣になって子どもたちを増やしていかないとコミュニティは崩れていき、津島の良さはなくなっていくと思う。

(委員長)

- ・今回、委員として2つの視点を持っていただきたい。一つは、津島市総合戦略の根本の部分、重点戦略で目指したものの検証。もう一つは、この会議の設立趣旨であるこの津島市まち・ひと・しごと総合戦略で立てたそれぞれの個別の施策について、きちんとできているかということのご報告をいただくということ。それに対して、できていなければ、ご提案するということ。
- ・それぞれご説明いただいた個別の主要施策の状況について、何かご意見とか、感じていることがあればお願いできるか。

(委員)

- ・重点戦略の3「名古屋市への通勤者の転入を増やす」は、具体的な方向、展開を考えているか。

(事務局)

- ・具体的事業については、5ページに示してある表に、◎を付した事業が該当する。項目としては「都市公園充実」や「道路整備の充実や住宅需要に対する受け皿づくり」を掲げており、「空き家対策事業の空き店舗の利活用」、「暫定用途地域の見直し事業」を実施している。また、「シティプロモーションの展開」でも関連する事業を実施している。

(委員)

- ・重点戦略に対する評価は。

(事務局)

- ・重点戦略のKPIは、住民アンケートが必要になるものが多く、毎年度、住民アンケートを実施することを想定して策定していない。事業を実施した実数、参加者数を示す形となる。

(委員)

- ・2年か3年毎に評価するのでなければ、5年先の事業に対する評価は出てこないと思う。

(委員)

- ・ スパンを短くしてやるという途中で軌道修正を行うことも必要なのではないか。

(事務局)

- ・ 評価方法については、事務局で検討させていただく。

(委員長)

- ・ 発言されていない他の委員はご意見あるか。事務局からご説明いただいたところに何か質問があれば。

(委員)

- ・ 事業を実施していることを津島市のホームページでも広報していると思うのだが、“転入させたい”という目標があるのであれば、周辺地域に対する告知・PRが必要ではないか。地域の人にどう伝わるかということが問題。せっかくいい事業やっているのにもかかわらず伝わっていないと思うのだが、いかがか。

(事務局)

- ・ 委員ご指摘のとおりで、事業を担当している課からもそういった問題があるということを知っている。子育てについては、より簡単に情報を収集できるようにアプリの配信や、若い世代に受け入れてもらえるよう、SNS を活用するなど、情報発信手段を検討し実行しているが、現状としては模索している段階。徐々に進めていきたいと考えている。

基本目標2「津島市に住み続けながら働けるようにする」の事業の進捗について、事務局より説明。

(委員長)

- ・ では、何かご質問があれば。

(委員)

- ・ 津島市の方向性としては、名古屋で働く人を移住させるのと、津島市で働いてもらうのと、どちらか。

(事務局)

- ・ 双方重要と考えている。

(委員)

- ・ 若い人たちは、製造業よりもサービス業に意識が向いている。製造業の工業誘致ではなくて、外に向かう人たちにターゲットを絞った方が効率的ではないか。

(委員)

- ・ 津島のハローワークは、津島市だけが管轄ではなく、愛西市、あま市も含まれるが、ハローワークにおける実際求職者の方たちの数を前年度、前々年度と比較すると、1割減っているという状況。雇用保険受給中の方も15%減っており、さらに今年度は6～7%減であり、求職者の方たちが減っているのが現状。
- ・ 実際、求職者の方、紹介を受けてどこの地域に就職しているのかというのを調査すると、津島のハローワークは管内就職56%程度、半分くらいの方は管轄外への就職している。すべてが名古屋市ではなく、一宮の方だったり、三重県だったりとかというこ

ともあるが、半分以上は津島の管轄外への就職をしている。

- ・管内の企業に56%は就職している。こういったニーズがあることも踏まえつつ、津島市さんとしては、両建てでいかなければならないだろうな、と思う。企業も誘致をしなければならぬだろうし、また、外に出ていきたい人のニーズを汲みながらかつ住みやすい地域を作ることも必要。
- ・ハローワークの求職者の人数がかなり少なくなっているため、企業のご要望に応えられなくなりつつある。
- ・愛知県内のハローワークの所長に対し、ハローワークはといったい今何をすべきか、とにかくいただいた求人を充足されることが大切だということで、求人充足に最も重点を置きなさいという指示があった。充足会議など色々施策を実施している。地域の企業さんを集めて10月25日に面接会も行う。面接会の前には、企業からプレゼンを行ってもらおう。それ聞いたうえで面接会に参加してもらおう予定。高校生から一般の大人まで対象とした面接会を実施することを考えている。
- ・住みやすさはいろんな方法があると思うが、一住民から考えると、やはり安心安全が重要。安心してこの地域で生活ができる、安全であるこの地域ということ考えると、防災系の施策も重要だと思う。

(委員長)

- ・地元の求職者の方は、津島管内の企業での就職を希望される方が多いのか、名古屋とか一宮とかのほかの地域の希望者が多いのか、どちらか。

(委員)

- ・高齢者の方は地元、若い方たちの半分は名古屋という傾向。高校生の方については、地元がいいという方が多い。通勤手段についても考えているのだと思う。

(委員長)

- ・13ページの空家等利活用件数について、今年度末は2件、目標20件となっているのは、この先、増やしていこう、そういうことか。目標20件というのは、総合戦略の期間内の累計と捉えていいか。

(事務局)

- ・よい。担当課からは、補助対象件数と聞いている。増やしていくことを想定している。

(委員長)

- ・予算がつかないとこの件数を勝手に増やせないということか。後半に件数が増えると苦しくなる。

(建設産業部長)

- ・今年度から助成要綱を定め、空き家の利活用系の事業を行っている。委員長のおっしゃられた通り、予算があるのが前提の事業となり、正直補助金も使っているため、20件というのはハードルが少し高いと思うが、目標として挙げている。

基本目標3「人の交流・活動を活発に市、都市のイメージを改善する」の事業の進捗について、事務局より説明。

(委員長)

- ・何か質問があれば。

(委員)

- ・堀田家住宅の所管は教育委員会がベターか。一般の人たちに広く見ていただくために、広域的に市外に広げていくにあたっては教育委員会ではなく別の課でもいいかと思う。
- ・シティプロモーションの推進で缶バッジ作成と記載してあることについて、効果的にPRできるようにされているのか。缶バッジの配布先をお教えいただきたい。

(事務局)

- ・後日報告させていただく。

(委員長)

- ・堀田家住宅について、観光に力を入れている名古屋市は、観光に関する課を立ち上げ、文化財もそこに集約させている事例もあるので、市としての力の入れ方、見せ方の話だと思う。現実問題、教育委員会の事業は堀田家住宅以外にも圧倒的にそれ以外の仕事もたくさんあり、堀田家はそれの1分野に過ぎなく、やりきれないと思うので、津島市の観光をどういう方針で進めるかというのを考えにかかってくるが、本腰を入れるのなら、“文化財＝教育委員会”という決め打ちをしなくてもいいのではないか。

基本目標4「時代に合った地域をつくり、健康で安心な暮らしを守る」の事業の進捗について、事務局より説明。

(委員長)

- ・では委員の方。

(委員)

- ・最近、今までに例のない集中豪雨がある。1時間100ミリの降雨があった場合、どのあたりが冠水しやすいか市役所では把握しているのか。

(事務局)

- ・後日お答えする。

(委員長)

- ・ハザードマップは行政においては100%持っているはずなので、何もないということはないと思う。ほかどうか。

(委員)

- ・他市町村と比較して、津島市では高齢化率が進んでいるのか。
- ・高齢となっても健康であるというのが重要だと思うのだが、取組についてはどうか。

(事務局)

- ・津島市の高齢化率は、約27%。全国と一緒か、それより少し多いという状況。
- ・高齢になっても健康のまま過ごしていただけるように、高齢介護課で体力の低下を防ぐ体操教室や認知症予防の事業を実施している。

(委員長)

- ・各基本目標についてご意見を頂戴したが、全般を通して何かあれば。

(委員)

- ・清林館高校が愛西市に移転することを加味した事業はあるか。

(事務局)

- ・津島駅の利用者数が減ると想定されるが、乗客数を増やすという点では、今実施している街づくりの施策を引き続き行い、観光客を増やすことが、乗降者数を増やすことにつながると考えている。
- ・津島駅関連、ということで、動きを報告させていただくが、市長と商工会議所の会頭で、津島から名古屋までの列車の増発の要望をしている。また、津島駅自体も老朽化しているので、耐震工事についても相談がある状況。

(委員長)

- ・また、乗降者数が減少することに対してどういう対策をするのかは、その駅の問題だけではない。今回の会議のテーマそのものではないが、今後の津島市の戦略において、意識していかなければならない問題だと思う。

(委員)

- ・清林館高校に関連して。清林館高校は、津島のちょうど真ん中、津島の旧市街にあり、移転するということになる、まとまった土地が空く。津島市としてどう活用していくか案があってもいいと思う。
- ・例えば、津島市の天王祭、秋まつりのバスの乗降場として活用はできないか。結構な数のバスが来るが、ほとんど津島神社のところで観光客を降ろしてしまう。天王通りを活かしていこうという企画がある中で、天王通りに近い場所を使えるのもチャンスなのではと思う。
- ・旧市内を回遊すると、受け皿がたくさんあって、津島の本当の貴重な文化財をお持ちになっていると感じることも多くある。行政や市民団体に活用できるのかなと思う。

(委員長)

- ・ほかいかがか。

(事務局)

- ・来年度のスケジュールについて説明をさせていただく。資料最後の地方創生交付金の活用事業について、国からの指示で、平成30年6月までに平成29年度の検証を行うことが必要であるため、平成30年5月に委員会を開催させていただきたい。津島市まち・ひと・しごと総合戦略の進捗管理の委員会については、8月開催を考えているため、平成30年度津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会は2回の開催を予定している。日程については、後日事務局から連絡する。

(委員長)

- ・これで会議を閉会する。ありがとうございました。